

平成

28年度

## 恵愛保育園自己評価

保育目標	評価・反省	次年度に引き継ぐこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で明るい子どもの育てる (病気をしない体づくり)</li> <li>・食に関わる体験を積み重ねる</li> <li>・心と心が通いあう挨拶をする</li> <li>・地域との関わりを大切にする</li> <li>・自然の移り変わり(四季)を十分に味わう</li> <li>・思いやりの心を育てる</li> <li>・素直に自分の気持ちが言える子どもにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は昨年と違って、小中学校、他の園でインフルエンザが流行していても罹患する子が少なく、また大きな怪我をする子も少なかった。</li> <li>・畑の収穫物、旬の食材を意識的に子どもたちに触れさせ、味わうことができた。(梅ジュースづくり、ふき、トウモロコシの皮むき等)食の体験と共に、四季を味わうことができた。食に対する興味、関心につなげることが出来た。</li> <li>・縦割り活動、地域との関わりで、人を思いやる気持ちがもてているようで、「ありがとう」という感謝の言葉が自然に子どもたちの口から出ている</li> <li>・地域との関わりでは、赤間駅前カムカムまつり、赤間西地区コミセンまつりに参加している。また、城ヶ谷区福祉会との交流や高齢者施設の訪問も継続できていて、子ども達にもいい経験になっている。</li> <li>・サニックスラグビー教室、ソフトバンク野球教室があり、また新しい体験をすることができた。</li> <li>・一年を通して梅、梅の木の観察をして食育につなげたり、園庭や、園外の自然に意識的に目を向けるような声掛けを子どもたちにしていた。</li> <li>・各クラスに支援が必要な子どもがいて、他児とのかかわりもスムーズにできている</li> <li>・異年齢児のかかわりは、三歳以上児だけでなく、未満児の中でも見られ、自分より年下の子に対して優しく接している姿がある。</li> <li>・家庭ではできない体験をし、楽しかった、怖かった、うれしかった等、気持ちを表現し、言葉に出すことができていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の流行の情報をつかみ、対策を行うとともに感染拡大予防の協力を保護者にしていく。</li> <li>・大きな怪我がないよう、ヒヤリハットを心がける</li> <li>・エビペン使用児が入園したので、職員全員対応を周知徹底する</li> <li>・意識的に体験させていかないと伝わらない事なので、あり、職員が自然や食材等を敏感に感じとって計画的に子どもたちに提供していく。家庭へもつながっていけるよう啓蒙していきたい。</li> <li>・縦割り活動や地域との関わりのように異年齢の人とのかかわりは良い経験になるので継続することが大事だと考える。</li> <li>・また、家族、友だち、先生にも挨拶が大事なことを伝えていく。</li> <li>・地域の行事は例年のものは継続して、新規のものは子どもたちの負担にならないように配慮して取り組む</li> <li>・職員が自然の小さな変化を見逃さず、随時子どもに伝えていく</li> <li>・職員、園児が自然研修を受け、自然に対して再認識できるようにする</li> <li>・支援が必要な子も一人一人の個性をいかせる保育に取り組んでいきたい</li> <li>・うまくかかわれている子どもたちの姿を認めていく</li> <li>・その時感じたことをまず保育士が言葉にだし、それが子どもたちに伝わっていけるようにしていく。子どもの気持ちしっかり受け止め、共感するようにしていく。</li> </ul>